

## なからぎ

222号

2018年7月

## 紙の本はなくなるのか

副学長 宮 藤 久 士

急速な電子機器の発達やインターネットの普及により、電子書籍が我々の生活の中の一部となってきた。小説、漫画、専門書などジャンルを問わず、様々な電子書籍を手に入れることができる。インターネットを検索してみると、紙の本がよいか電子書籍が良いかといった議論が沢山あり、どちらにも一長一短あるようだ。

文書に求める主要な機能は、筆者が書いた内容を広く伝えることであろう。それは空間的な広がりだけではなく、時間を越えた広がりであることもある。単に情報伝達のための文書であれば電子媒体は有効な手段であると感じるが、小説や詩など情緒に訴えかけるような文書の場合は特に紙の方が適しているのではないかと感じている。自身の経験を振り返ると、感情に触れる文章を読んだ際には、読んだ本の大きさや厚さなども記憶されており、視覚からだけでなく、触覚も含めて情報が入っていることをしばしば感じるからだ。文書の内容によっては電子媒体もあっていいと思っているが、紙の本を読んで育ってきた当方としては、紙の本に親しみがある上に、記載内容も記憶もされやすいので、紙媒体の方を好んでいる。

歴史的には文書の媒体として、石、岩、粘土板、亀の甲羅や鹿の骨など、様々なものが用いられてきたが、文字が広く普及してからは木簡が用いられ、その後は紙が媒体として用いられてきている。木簡は木そのものが使われているし、紙は木材中の繊維を利用しており、形は異なっているが、両者とも木材を利用していることには変わりない。そう考えると、木材が個人の喜怒哀楽から国家の重要事案まで、さまざまな大量の情報を後世の人にも伝えるという重要な役割を担い、人類の発展に大きな役割を果たしてきたのではないかと考えると、森林科学科の教員である当方としては感慨深い。しかし、急速な情報化が進む現代社会において、大量の情報を劣化させることなく未来に伝えるためには、情報を電子化することは極めて合理的であり、新たな媒体として電子媒体が選ばれているのは、歴史の必然なのかもしれない。

しかしながら、紙の書籍は一般の紙製品とは異なり、廃棄や焼却はされにくいものである。したがって、二酸化炭素を固定している木材から生産される紙は、温室効果ガスである二酸化炭素を大気中に排出することなく、書籍という形で長期に固定しているとも考えられる。そのような観点からも、紙媒体がなくなることなく、存続することを願ってやまない。

## イーハトーヴ

図書館運営委員 福井 亘

私が影響を受けた本と作家についてお話をします。今迄、多くの本と出合いました。色々な分野の本たちです。ここでは、皆さんが大学で学んでいる専門書のお話しではなく、それとは違って、物語や詩の本から学生の皆さんへお話しできればと思う所です。

さて、学生の皆さんは、宮沢賢治さんの名前は知っていると思います。彼が執筆したのは、子供から大人までの多くの人たちにとって一度は聞いたり、読んだり、見たりしたことが有るでしょう。注文の多い料理店、グスコブドリの伝記、銀河鉄道の夜、セロ弾きのゴーシュ、オツベルと象、檜ノ木大学士の野宿、春と修羅など様々な物語や詩を書いてきた人です。私は子供の頃からそれらの作品を読んできました。彼が手にしたペンの先から、紙の上に飛び出すような物語の数々。そして自然の光景や情景を伝える詩。私は子供の頃からその想像や心象の世界に引き込まれ、特に深くも考えずに物語の世界を見ていました。只ただ、彼の創りだされた様々な色彩を持った世界を読んでいくことで、色々なものが見えていたのだと思います。私の頭の中では、物語の中に居るだけなので、難しいことや悩ましいこと、考えることはありませんでした。つまり、単純に読んでいて「楽しい」と云った事です。

人は成長をします。そのうち、深く考えずに物語を読んでいた子供時代から作品の中を少しずつ深く考えられる年代に成長していきました。その時、書かれている文章の意味について考えるようになりました。「何を示しているのか？何を考えるべきなのか？」と云うほど難しいことを考えて読んでいた訳で

は無かったのですが、文字の間に何か隠れているような、それでいて、何かの意味を示しているような感覚です。例えるならば樹の枝で、じっとしていた小鳥が、人の気配でつい動いて見つけられたような感覚です。発見したというのではなく、動いたから見つけられたと云った感じでしょうか。

隠れているものが良く分からないながらも作品を読むことで、何かしら深い意味が幾つも散りばめられているのではと思えるようになりました。彼の創り出している擬音語もしかりです。彼の書き出している擬音語には、一体何の意味が有るのだろうか。

小学校から中学校、高等学校と学ぶ場を進むにあたって、宮沢賢治の作品を手にするたびに、作品の内容を読み解けそうな感じを受けつつも、煙に巻かれるような、または探しているものを見つけれられたようなことが多くありました。読むたびに、新しい発見を得られたと云った方が良いかもしれません。

そういった中、二浪後に大学へ進学し、再び手にしたのが、「宮沢賢治詩集」です。詩を読むことは、物語を読むのとは異なって、私にとって簡単ではなく難しいと感じていました。難しいながらも詩を読むことは、何かの新しいものを見出せるのではないかと私は思うのです。詩に書かれた文字。その文字たちが、幾つかの単語を紡ぎ、そして其処から様々な心の中や周りの光景や情景を導いてくれるのです。其処には、詩によって創り出された心の力強さや弱さ、または楽しさや悲しさがあります。彼の創り出している詩の中は、複雑で、感情をぶつけていることで、読み手の私へも訴えられているような錯覚を得ます。

大学生の時は彼の詩を読むことで色々と頭の中で理解しようとしていたような気がします。ちょうど農学部で畜産を学び、大学と農場を行ったり来たりした時分だった事もあって、彼の詩へ感情移入していた部分も大きく有ったかもしれません。

大学院、社会人になってからも、この詩集はいつも一緒に、手元にありました。もちろん、写真の様にくたびれた本となっていますが、東京から神戸、そして福岡と居を移しながらもその詩集は手元にあり、今でも紐解いています。そして仕事や調査で海外へ行くときも何となく鞆に入れて持って行くのです。院生の時にドイツで一人、屋根裏の安い部屋にいた時も中国や東南アジアを旅や仕事や調査で飛び回っている時も何かしらいつもこの詩集は持って行って行っていました。本学での長期研究期間で廈門にて生活した時も、勿論持って行って行っていました。他の本も持って行きますが、小説を読み返すことは少ないながらも、この詩集は何となく何度も紐解く事が多いのです。移動中や空港での乗り換えの時間の沢山ある時、そして宿や生活していた場で、何気に開いて読んでいました。読むというより見る方が正しいかもしれません。文字が何かと何かを繋いで意味を成しているのが見えてくる気がします。

今迄生きていた中で色々と経験をしてきました。そういった経験した事柄を踏まえて、この詩集を読むと改めて共感するところも見えてくるのです。自分の人生に付加されていくかどうかは良く分かりません。が、何かが付加されこそすれ、減っていくことは無いと思えます。「詩」とはそういった力を持っているのではないかと私は考えているのです。学生の皆さんにとって出会う本は沢山あるはずですが、その中でもいい本と出会う、人生を左右する本と会うのは数が少ないかもしれません。ご自身にとって良い本とは何だろうか、学生の間に少し時間を取って考えてみる事もいいと思います。

さて、少し話は変わりますが、彼の物語や詩の舞台の一つに岩手県の盛岡や花巻があります。子供の頃からこの近辺のイーハトーヴへ行きたくて仕方がありませんでした。イギリス海岸、羅須地人協会……。ただ行って見ると、それは想像の賜物であって、がっかりするのではないかと、物語の中だけで思っていた方がいいのではないかと、社会人になるまで行く勇気が有りませんでした。幼いころから自分が思い描くものが瓦解するかもしれないと考えたからです。短期大学で造園を教える教員として働きだした時に、山形にある芸術系大学の非常勤講師として行く機会があり、それをきっかけに思い切って岩手まで回ってみることにしました。

詩や物語の舞台がそこにありました。それを見て私は思いました。全くの杞憂だったと。もっと早く行くべきだったと。学生の頃に行っておけば良かったとその時は思ったものです。もし学生の頃に行っていたら、また違った感覚が有っただろうと。学生の皆さんはどうでしょうか。本を読んで行ってみたいと思う所はありますか。もしあれば、ぜひ学生の間の長期休暇で実行してみてください。本との出会いは色々な可能性を広げてくれます。

皆さんにとって良い本との出会いを。

(ふくい わたる :

生命環境科学研究科准教授)



「新編 宮沢賢治詩集」天沢退次郎編 新潮文庫 (平成三年発行)

## 平成29年度の利用状況等について

昨年4月に「京都府立京都学・歴彩館」の2階に移転し、リニューアルした附属図書館、もうご利用されましたでしょうか。

リニューアルから1年余りが経過し、この機会に平成29年度の利用状況を以下の表にまとめてみました。

まず、本学学生への貸出については総数で2万冊超となっており、過去10年間の冊数推移を見ると「ほぼ横ばい状態」であることがわかります。リニューアル後の貸出がほぼ4月の終わりからであったことを考慮すると、実質的には例年よりも増加しているといえるのではないのでしょうか。(表1)

新たな設備も増え、利便性が大きく向上した図書館の利用は、その利便性や特に夏場の快適性等が理解されるにつれ、今後は順次増加していくのではないかと考えています。

また、各図書館間の相互利用件数並びに国立国会図書館による図書館向けのデジタル化資料送信サービスについては、表のとおりとなっています。(表2、表3)

これらのデータから直ちに窺えるような特筆すべき点はありませんが、他の図書館に対して貸出又は複写を求める「依頼」や、他の図書館から貸出又は複写を求められる「受付」の状況は、概ねほぼ同数程度となっています。

さらに、国立国会図書館が保有するデジタル資料について、本学の利用状況を見ますと、送信サービスに係るアクセス数は165件、複写件数は159件となっており、年々増加する傾向にあります。(表3)

以上、昨年度の利用状況等を踏まえ、簡単にふりかえって見ましたが、図書館では、これらを踏まえ、さらに利用の増加やよりよいサービスの提供に向け、検討を重ねていきたいと考えています。

表1 参考：過去10年間の貸出冊数等

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学生総貸出冊数	20,724	19,322	20,535	21,578	21,363	20,408	19,862	20,465	21,211	20,804
内大学院生	3,767	3,190	2,604	2,987	3,754	3,214	3,068	3,041	2,820	2,688
内学部生	16,957	16,132	17,931	18,591	17,609	17,194	16,794	17,424	18,391	18,116
学生数	2,074	2,074	2,115	2,159	2,198	2,163	2,133	2,115	2,095	2,107
府大学生1人当り貸出冊数	9.99	9.32	9.71	9.99	9.72	9.44	9.31	9.68	10.12	9.87
国立大学 (学生1人当り)	9.85	10.14	10.43	10.32	10.36	10.50	10.60	10.93	10.64	未発表
学生貸出冊数 (1館当り)	21,561	22,710	23,303	22,614	22,740	23,062	23,208	23,830	23,420	
公立大学 (学生1人当り)	11.90	12.29	12.14	11.71	11.00	11.10	11.25	11.02	10.47	
学生貸出冊数 (1館当り)	14,184	14,149	14,161	13,334	12,937	13,161	13,031	12,654	12,303	
私立大学 (学生1人当り)	7.40	7.08	7.29	7.29	7.29	7.04	7.28	7.54	6.73	
学生貸出冊数 (1館当り)	17,613	17,190	17,564	17,217	17,059	16,793	17,019	16,377	16,262	
全大学 (学生1人当り)	8.11	7.93	8.15	8.11	8.08	7.90	8.12	8.43	7.66	
学生貸出冊数 (1館当り)	18,151	18,047	18,425	17,953	17,830	17,713	17,878	17,507	17,305	

参考資料：文部科学省「大学図書館実態調査結果報告」「学術情報基盤実態調査報告」 京都府立大学：『学生便覧』



表 2 参考：図書館間相互利用件数

区分		年度				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
貸借	他図書館への依頼	159	175	87	80	121
	他図書館からの受付	123	164	142	126	109
複写	他図書館への依頼	1,489	1,246	1,082	682	789
	他図書館からの受付	1,486	1,140	1,112	911	842

表 3 参考：国立国会図書館による図書館向けのデジタル化資料送信サービス

区分		年度			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
アクセス数		40	74	118	165
複写件数		12	72	126	159
複写枚数		838	729	1,193	1,324

※本サービスは、平成26年7月から開始

## グループ研究室・研究個室利用のご案内

既にご存じの方も多いと思いますが、図書館では、府立大学の皆さんの学習や研究を支えるため、研究個室10室及びグループ研究室4室を備えています。

平成29年度においては、研究個室は343件、グループ研究室は705件の利用がありました。

グループ研究室には、36人までご利用いただける1室と12人までご利用いただける3室があります。さらに利用の際には、インターネットに接続できるパソコンやプロジェクター、スクリーンも貸出しております。

これらの部屋は、自習やゼミ、会議とともに、研究授業やクラブ活動の打ち合わせなどにも利用されています。グループ研究室の利用については、2人以上としており、開館時間内であれば特に利用時間の制限は設けていません。

また、研究個室は1回につき3時間以内、1日で最長6時間の使用が可能です。

これらの申込方法は、直接カウンターでの申込のほか、インターネットによるマイライブラリからの予約も可能です。

機会があれば、ぜひご利用ください。

参考：過去3年間の利用件数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
研究個室	29	29	343
グループ研究室	317	262	705

平成27～28年度は個室が4室、共同研究室2室の利用件数



暑い日が続いていますが、府大図書館では7/27(金)から

# 夏休み貸出が始まります!!

学部生・院生の皆さんの通常貸出冊数は

## 12冊

です!!

**4回生・院生の皆さん!!**  
**特別貸出(1ヶ月6冊)は**  
**そのまま**  
**合計18冊です!!**

**返却予定日**  
**10/9(火)**

## カレンダー

9:00~  
21:00

**休館**  
第2水曜日  
祝日

※平日17:00以降、土日は行っていないサービスもありますのでご了承ください。また、返却ポストは利用できません。ご迷惑をおかけしますが、開館時間中にカウンターへ返却してください。

2018年7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2018年8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2018年9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

★7/17(火)~8/4(土) 府民貸出停止  
 ★7/27(金)~ 夏休み長期貸出開始  
 (府大学生・教職員のみ)  
 学生の貸出冊数 12冊  
 返却期限 10/9(火)



★9/25(火)~ 府大学生・教職員通常貸出  
 ★臨時休館を行う場合があります。その場合はご不便をおかけしますが、ご了承願います。(決まり次第お知らせします。)